

# ごごみ日和62

特集：捨てるの、ちょっと待って。遊びながら学ぶ「紙の再生」  
「紙フェスin京都 遊びと学びの紙の世界」レポート

地域活動レポート：中京区民ふれあいまつりの  
「エコステーション」に込められた思い  
～中京区地域ごみ減量推進会議～

グリーンキーパーがゆく：フィールドワークを通じて感性豊かな芸術家を育てたい  
京都嵯峨芸術大学 真板教授

コラム：これっているかしら？  
トイレットペーパーの芯

なごみ日和：KBS京都 アナウンサー 海平 和



お知らせ：

「ごみにまつわる映画祭」  
ドキュメンタリーフィルムとトークでごみについて考える3日間

折る、切る、貼る、ねじる、拭く、裂く、ちぎる、包む、塗る、描く、書く。  
たった一枚の紙なのに、こんなにたくさん、できることがある。  
でも、ひとつだけ、ちょっと思いとどまってほしいことがあります。  
それは「捨てる」。  
紙を捨てることで、無限の可能性も捨ててはいませんか？

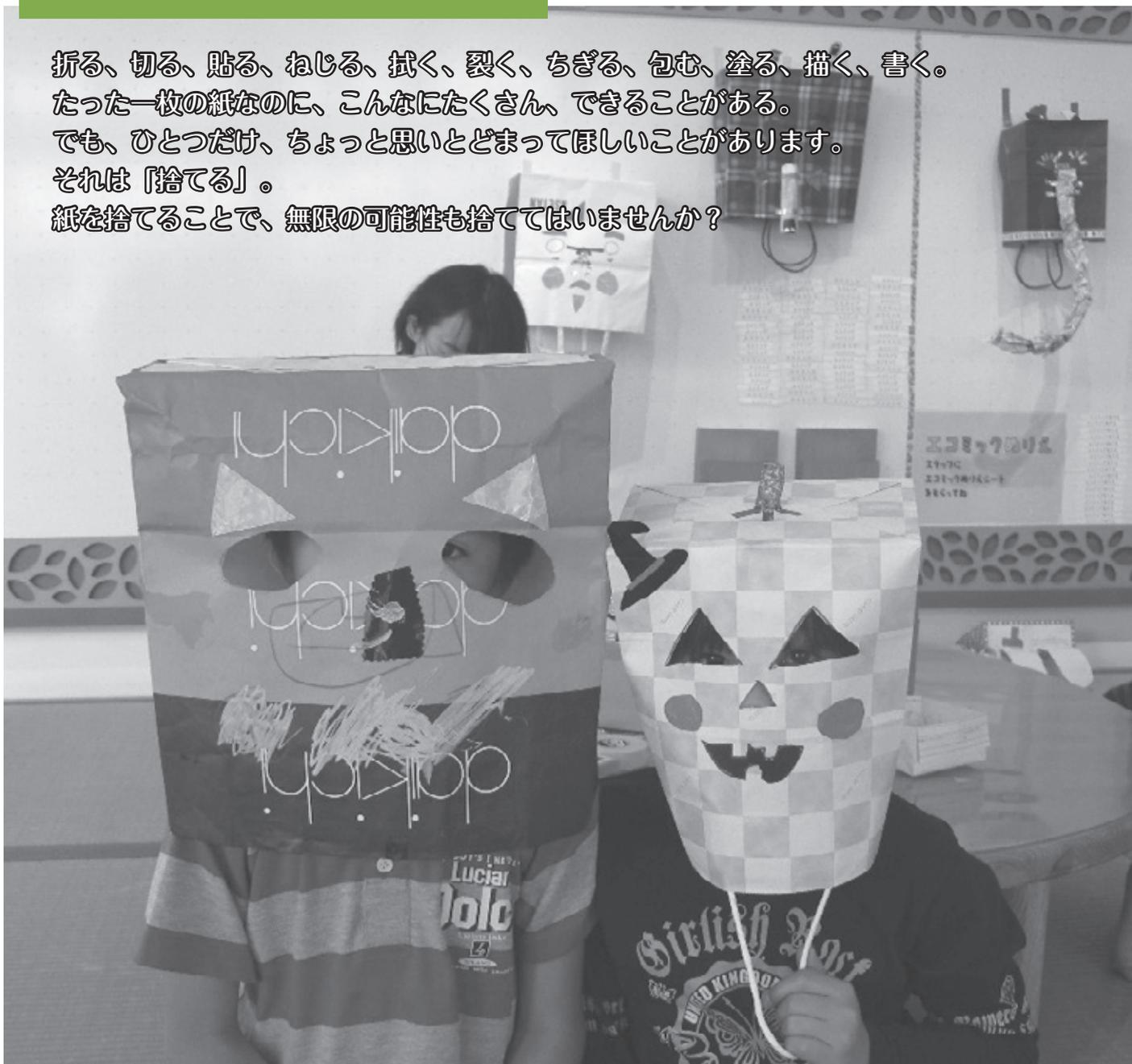
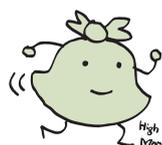


写真 吉村智樹

「ごごみ日和」は、京都市役所、各区役所・支所のエコまちステーション、  
京都市図書館、京都生協（市内店舗）などで手に取っていただけます。  
最新号・バックナンバーもウェブで公開中！ <http://kyoto-gomigen.jp/>



手をとりあって ごみを減らそう！

京都市ごみ減量推進会議

ごみ減

検索

# 紙フェス in 京都

イベントのタイトルロゴは、北白川児童館の皆さんにご協力いただきました。

## 特集

捨てるの、ちょっと待って。  
遊びながら学ぶ「紙の再生」

### 「紙フェス in 京都 遊びと学びの紙の世界」レポート

新聞紙、チラシ、包装紙、紙袋など、“紙”は私たちの生活に欠かすことができないもの。しかしあまりにも身近にあるため、ついつい深く考えることなく「燃やすごみ」として捨ててしまいがちです。でも捨てられた紙のなかには、実はリサイクルできるものも多く含まれているのです。繰り返し使えるのに燃やして灰にしてしまうのは、もったいないですよね。

そんな暮らしと紙との関係を、実際に手で触れ、工作体験など紙と遊ぶことを通じて肌で感じ、学んでほしい。そんな想いを発端として、11月2日の日曜日、当会議主催による「紙フェス in 京都 遊びと学びの紙の世界」が京エコロジーセンターにて開催されました。

#### 紙の“プール”に“音楽会” 親子で楽しむ紙遊び

会場に足を踏み入れてまず目を引いたのが「紙プール」。新聞紙をちぎって水に見立てたプールに親子で仲よくダイビング！水しぶきならぬ紙しぶきが本物のプールさながらに舞い散り、皆さん大喜び。ここだけ夏が戻ってきたかのよう。



ほか、山口花奈さんによる使い切れなかったノートの余ページや裏紙を活用した「製本ワークショップ」や、山田登美子さんによる動物や植物をかたちづかった「紙の森」、京都市ごみ減量めぐくん推進友の会による「紙すき体験」など、楽しみながら紙に触れられる体験コーナーが目白押し。

バスメロディオン（鍵盤ハーモニカの一種）の第一人者として知られるミュージシャンの鈴木潤さんの指導による「紙の楽器で音楽会」では、トイレットペーパーの芯や空き箱、段ボールなどが、わずかなひと工夫で見事に楽器に

変身。会場には紙ならではのあたたかみと素朴な音色が響きました。NPO法人スウィングによる「紙でスウィング。アレ+ソレ=…ワカラナイ！～お面で変身ヘンテコ動物！～」は、いらなくなった紙袋で動物を模したお面を作るワークショップ。創意にあふれたユーモラスな動物たちが次々と誕生。一日で600人超が参加するイベントとなりました。

また、展示コーナーでは泉製紙株式会社、大津板紙株式会社、京都グ



リーン購入ネットワーク、谷藤紙業株式会社、など紙の最前線に立つ企業や団体が、再生紙製品の製造工程、紙製品の選び方、古紙の回収からリサイクルの流れなど、「回収された紙がよみがえるまで」をわかりやすくディスプレイ。そのほか、京都生協で行われている「アルミ付き紙パック



の回収」の紹介や、日本銀行京都支店より、約1億円分の裁断された紙幣と、それをリサイクルした固形燃料の展示、また、京都市の子どもたちが洗って集めた学校給食用牛乳の紙パックをリサイクルしたトイレットペーパー「めぐレット」もお披露目されました。

#### 紙の大切さを、 理屈より、まずは肌で感じてほしい

この「紙フェス in 京都」を企画したのは、京都市ごみ減量推進会議の委員であり、先ごろ京都造形芸術大学を定年退職された同大名誉教授の水野哲雄先生。水野先生は京都造形芸術大学で「こども芸術学科」を起ち上げるなど、子どもとアートとの関係を常に見つめています。

「京都市では、用が済んだ紙を積極的に資源ごみとして回収しようという動きがあります。でも、言葉でいくら理屈を説明しても子どもたちにはわかりにくいと思うんですよ。ですので、紙と触れあえる機会を作ったら、感覚的に

伝わるんじゃないかと思ったんです。一度役目を終えた紙って、面白い造形素材になったり、おもちゃになったりするんですよね。紙袋を裏返すだけでも意外と難しいし、おもしろい。紙のしわを顔の表情に見立てるなどして、想像も膨らむ。そうやって遊ぶことを通じて、『身近にどんな紙があるのか、どう接しているのか』を知ってもらえたら」



水野先生

#### 古新聞を使った遊びが育む リサイクルへの関心

確かに、幼い頃に紙で遊んだ経験は誰しもあるもの。大学コンソーシアム京都のインターンシップ\*でNPO法人木野環境の京都グリーン購入ネットワークに関わり、同団体のブースで古新聞による作品づくりの指導にあっていた龍谷大学文学部哲学科三年生の中山和香奈さんもそのひとり。

「子どもたちを対象に、自由な発想を活かせる紙を使ったワークショップをやりたいなとずっと思っていたんです。自分自身も幼い頃に折り紙や新聞で何かを作るのが好きだったから。紙で遊んだその経験は、古紙のリサイクルに興味をいなくきっかけになったと思います」

\*インターンシップ…学生が一定期間企業などの中で研修生として働き、自分の将来に関連のある就業体験を行える制度。



#### トイレットペーパーは 紙の再利用の最後のかたち

こうした実践的に紙のリサイクルやリユースを学べる「紙フェス in 京都 遊びと学びの紙の世界」。その最終形として、トイレットペーパーに特化したコーナーも設けられました。

愛媛県を拠点とする泉製紙株式会社は、用水や薬品を極力使わないで、環境にやさしい古紙再生商品を製造して



いる製紙メーカー。「シングルとダブルではどちらがお得か」「あなたの一当たりの使用量は多いか少ないか」など生理現象に着目した展示を行い、多くの人が関心を寄せていました。

「トイレットペーパーは、もう再利用できません。紙の最後のかたちです。古紙パルプの展示を見て、紙がどうやってここまでたどり着いたのかを考えてほしいですね」

今回のイベントを通じ、たった一枚の紙にもさまざまな転生のドラマがあることを知りました。一枚の紙は薄いけれど、そこに携わる人々の情熱は、とても熱く、そして厚いのです。

吉村智樹（平成26年11月2日取材）

# 中京区民ふれあいまつりの「エコステーション」に込められた思い



リユース食器とごみの回収ブース



秋晴れの日曜日、中京区民ふれあいまつりの会場である京都市立中京中学校はたくさんの家族連れで賑わっていました。グラウンドの周りには、元学区ごとに食べ物や手作り品を販売する模擬店が立ち並び、焼き鳥やラーメン、焼きそばなどの美味しそうな匂いがおまつり独特の雰囲気を盛り上げていました。中京区民ふれあいまつりでは、昨年度から、中京区地域ごみ減量推進会議（以下、中京区地域ごみ減）が中心となり、リユース食器とごみの回収ブースを運営。食事の際に出るごみを減らす工夫を続けています。今回は、大規模な地域のイベントを通して見えてきたごみ減量活動の課題や展望について、中京区地域ごみ減の渡邊幸昭代表や各学区の地域ごみ減の会長にお話を伺いました。

## 回収のひと手間を‘ありがとう’の窓口

中京中学校のグラウンドの中央部分、食事スペースの真ん中に、リユース食器の回収拠点をはじめとする「エコステーション」がありました。「来場者にリユース食器のことをもっと知ってもらいたい」という願いから、会場内で一番目立つ場所を確保。中京区地域ごみ減や中京エコまちステーションが一体となり運営にあたっていました。リユース食器の回収には、分別や管理など人手が必要です。そこで、1時間交代でシフトを組み、各地域ごみ減の会員さんに協力をお願いしました。幸い、各地域ごみ減の方からは、「1時間くらいやったら任せといて！」

と心強い返事をもらい、スムーズに拠点運営ができました。リユース食器の回収窓口では、ごみの分別も実施。担当者の「ご協力ありがとうございます」の声に、リユース食器の利用者からは「ごちそうさまでした」「ご苦労さまです」など温かい声が聞かれました。渡邊代表は、「今年手伝ってくれた人が、また来年も協力するで、と言ってくれたことが嬉しい。運営側の意識も高まっていると感じます。」楽しい食事の後は、リユース食器の返却とごみの分別を。この心遣いがふれあいまつりに定着し、さらには家庭でのごみの減量に繋がるといいですね。

## リユース食器、普及への課題

今回のふれあいまつりで導入されたリユース食器は約1000食分。飲食全体の販売数のおよそ10分の1です。リユース食器の利用は、おまつりで出るごみの減量に繋がるだけでなく、発泡トレーなどと比べ、熱い汁ものを入れても手で持ち運びやすく、丈夫なので食べやすいという利点もあります。また、リユース食器にはどんぶりやお皿、コップなどいくつか種類があり、用途に応じて選ぶことができます。リユース食器の貸出や

運用を行っているecotone（エコトーン）\*1代表の太田航平さんからは、「食べ物だけでなく、ジュースやビールをリユースカップで提供すると、ぐんのごみが減りますよ！」と更なるアドバイスも。各出店団体へのリユース食器利用拡大の動きかけは今後の課題ですが、来年はより多くのリユース食器が活躍するかもしれません。

## 資源物回収の新たな主役「雑がみ」

リユース食器の回収拠点の隣では、プラスチック容器包装をはじめとする資源物回収について紹介するパネルや、エコなお買い物のヒントを集めたパネルを展示。特に、平成26年6月から京都市で一斉に始まった雑がみ\*2（新聞・段ボール以外でリサイクルできる紙類）の回収については丁寧な説明がなされていました。普段はごみについて考える機会が少ない方にも、「これならすぐにできる！」という情報を持って帰って欲しい。大規模なイベントでの啓発には力が入ります。パネル展示とあわせて行われた環境クイズは、区民の意識調査とし



エコステーションでのパネル展示の様子

## 元学区単位で広がるエコ活動

雑がみを含む古紙回収について、実際に取り組まれているお二人の会長にお話を伺うことができました。乾学区地域ごみ減の沼田幸夫会長は、「私の学区では、古紙回収を実施していない町内がまだあるので、燃えるごみの日にどのくらいの紙がごみとして出ているか、パトロールをしています。『雑がみを分けるのは手間だ』という意見も多いですが、30ℓの黄色いごみ袋（家庭ごみ有料指定袋）が10ℓで済むなど、ごみの減量を実感できるので、今後も理解を求めていきたいと思います。」と語って下さいました。

また、学区単位での古紙回収を実施している竹間学区地域ごみ減の川崎元彦会長は、「毎週水曜日の朝8時から、古紙の一斉回収を実施しています。回収事業者の協力を得て、各戸の玄関先に出せるので、高齢者にも大変好評です。回収拠点のお世話や、遠くまで重たい古紙を運ぶ必要がないので、回収量は順調に伸びています。今後は、マンションの管理組合とも話し合

ても役立っており、渡邊代表をはじめ、地域ごみ減の会員やエコまちステーションの職員が熱心に来場者の質問に答えていました。クイズに挑戦された方には、雑がみ入れとして使える収納用品を中京区地域ごみ減オリジナル『雑がみあつめ箱』と名付けて、利用方法の提案と合わせて進呈されていました。どうすれば家庭でも雑がみを分別しやすくなるか、地域ごみ減らしいアイデアが詰まっています。紙は「資源」、捨てずに再利用をお願いします！



渡邊幸昭代表



沼田幸夫会長



川崎元彦会長

い、学区内の全戸での実施を目指しています。」と力強くお話しして下さいました。それぞれの活動が、中京区全体の環境意識の向上に繋がっています。

17の地域ごみ減が、手を携えて運営している中京区地域ごみ減。設立から3年目を迎え、お互いの活動に刺激を受けながら、真剣に地域づくりに取り組まれる姿勢に胸を打たれました。このほか、この11月に行われた「グリーンコンシューマー全国一斉店舗調査\*3」に参加したり、施設見学会を計画したりと、充実した活動を進めています。小さな一歩も、皆で進めば大きな一歩に。中京区地域ごみ減の活躍に注目です。

松村香代子（平成26年10月26日取材）

\*1 特定非営利活動法人 地域環境デザイン研究所 ecotone

リユース食器のレンタルについては、ご利用日の2週間前までに事務局までお申し込み下さい。詳細は下記までお問合せ下さい。

〒604-8821 京都市中京区壬生柳ノ宮町9-13 HAJIME.BLD

Tel : 075-205-1433 / Fax : 075-205-1434

e-mail : info@ecotone.jp URL http://www.ecotone.jp

\*2 雑がみとは、新聞紙、段ボール以外で、リサイクルができる紙類の総称です。紙袋などにまとめて、お近くのコミュニティ回収（地域の集団回収）にお出し下さい。コミュニティ回収以外にも回収方法がありますので、詳しくはお近くのまち美化事務所や区役所・支所内のエコまちステーションにお尋ね下さい。

\*3 グリーンコンシューマー全国一斉店舗調査とは、スーパー等に環境に配慮した製品・サービスが置いてあるかどうかの調査で、日々の買い物からグリーンな社会をつくるための行動です。認定NPO法人環境市民が主催。今回は、全国で170店舗余りの調査が行われました。

## フィールドワークを通じて感性豊かな芸術家を育てたい

京都嵯峨芸術大学に到着すると、学祭前で学生さんたちが忙しそうに準備をしていました。さすがは芸大！立て看板やらポスターはどれも芸術作品！今回は、「エコツーリズム」がご専門の同大学教授 真板昭夫先生に、環境教育と芸術家育成の観点からお話を伺いました。



### 芸術＝リアリティの追求

さっそく、先生に、普段の授業についてお話を伺いました。「僕の授業は自然を相手にしたフィールドワークが多いですね。」芸大の先生がなぜフィールドワークに力を入れるのかと聞いてみると、「何かを描くにしても、ただ見たものを描くだけではダメなんです。実際に触って、匂いも嗅いでみたりする。芸術作品とはその対象をとことん知ること、つまり、リアリティの追求。ただ見て描いた作品からは何も伝わってこない！」なるほど！

### フェノロジーカレンダーの制作

フェノロジーカレンダーとは、季節によって変化する地域の自然や郷土料理などをカレンダーとして表現したもの。いわば、地域の1年間の特徴がひと目でわかるカレンダー。現在、先生のゼミの学生は、このカレンダーの制作に取り組んでいます。もちろん、芸大生の作成するカレンダーですから、随所にイラストや写真が挿入され、見ているだけでその地域に行ってみたくくなります。現在は、大学のある嵯峨野を対象にカレンダー

を製作中。学生の皆さんは定期的にフィールドワークを行っているそうです。



フェノロジーカレンダーの製作打ち合わせ

### 真板 昭夫 先生

京都嵯峨芸術大学芸術学部デザイン学科 観光デザイン系教授・大学院教授  
同大学観光デザイン研究センター所長、北海道大学大学院客員教授  
未来政策研究所 代表取締役社長、日本エコツーリズム協会理事、日本ガラバゴスの会理事、他多数  
フジテレビKIDSクラブ「ふしぎな森のふしぎ先生」のコラム執筆中。

京都光華女子大学環境ボランティアサークル グリーンキーパー（平成26年10月31日取材）

### 人の言葉ではなく 自分の言葉で愛を語れ！

豊かな自然を表現するときに、よく「美しい」という言葉が使われますが、先生は学生に「美しい」という言葉を使わずに「美しい」ことを表現しなさい」と指導されています。本当に何かを愛することを知ったとき、表現は具体化され、借り物の言葉は出てこないとのこと。今の芸術家の卵たちに欠けていることは、本当に何かを愛すること、自分の言葉でそれを表現することだそうです。感性豊かな芸術家を育てるために、自然を相手にしたフィールドワークは非常によい学習スタイルとのことでした。

### もじゃに-MOJANI

最後に、その特徴的な髪型について恐る恐る伺いました。先生は明るく「これ天然パーマなんです。子どもの頃にいじめられたこともあったけど、ビートルズが来日した時にカッコイイ髪型として見られるようになったんです！人の価値観って変わるもんだね。」とおっしゃっていました。西表島のおばあさんに「もじゃもじゃにー」と名づけてもらい、長いので「もじゃに-MOJANI」を略称にしているそうです。ガラバゴスやフィジーでも国際的に活躍の先生。この特徴的な髪型で国際的な争いを防ぎ、笑いに変えたこともあったとか！

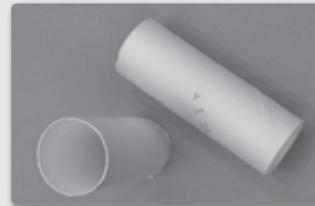
## これって、いるかじ？ 第7回 トイレットペーパーの芯

このコーナーでは、暮らしの中にある「なんとなく使っているけど、本当にいるのかなあ？」というものに注目して「これをやめれば、ごみも減るよね」というものを紹介していきます。

トイレに行くと「これどうにかならんかなあ」と気になるのが、そう、トイレットペーパーの芯です。多くの方は、写真のような芯に巻いてあるものを使っているかと思いますが、でも世の中には、実は…芯がないものもあるんです！

とっても穴が小さいものや、穴の大きさは普通だけど、厚紙で作った芯がないものなど。手前味噌ですが、京都市ごみ減でも作っています。その名も「めぐレット」。小学校の給食で出る牛乳パックをリサイクルしたトイレットペーパーです。詳しくはごみ減ウェブで！

(事務局 齋藤友宣)



▲これがなくなるだけでも、ずいぶんと違います。

## なごみ 日和



KBS 京都 アナウンサー  
うみひら なごみ  
海平 和

### ●● 第4回 赤山さん ●●

KBS京都に入社して、まもなく5年になります。先日嬉しい再会と発見がありました。

入社2年目の秋、おすすめの紅葉スポットを紹介することになり、私、海平のおすすめということで1カ所を任せられることになりました。その時選んだのが、別名もみじ寺とも言われる「赤山禅院」。延暦寺の塔頭のひとつです。また、平安京の東北に位置し表鬼門にあたることから、赤山大明神は皇城の表鬼門の鎮守としてまつられています。そんな赤山禅院に小さな頃から赤山さんと親しみ、家族とともに訪れていたのですが、久しぶりに参拝したのがこの取材の時です。同期のカメラマンとともに、慣れないながら取材依頼をし、撮影をし、どのように紹介するかを考え、その日の夜の番組で紹介した日のことを、今も鮮明に覚えています。紅葉と寒桜が同時に楽しめるそのコントラスト、参道の紅葉のトンネル、池の鯉たちの赤とその水面にうつしだされる紅葉の美しさ。これらの景色が心にくっきりと残されながらも、それ以来訪れることができずにいました。

それから3年。先日ようやく訪れることができ、「きれいね〜♪」と紅葉と寒桜の下で写真をとっていると…後ろから「久しぶりだね」と優しい声が。それは、取材の時に大変お世話になったご住職。覚えて頂いていただけでなく、ラジオも聴いてくださっていたそうです。お話を伺いながら池へいくと、美しい鯉がたくさん泳いでいます。その鯉たちは1匹ずつ名前がついているほど立派な鯉であること、かなりの量のえさを食べることで、冬は食べなくなること、だから池を汚さないように、気温をみながらえさをやらないようにすることなど、初めて知ることばかりでした。また、紅葉が散ったあとも、多くの参拝客の方々に長く楽しんでもらうために、紅葉の絨毯を美しく保つ工夫をされていることも伺いました。

自然との対話と、見えないお心遣いによって、季節ごとの美しさや感動は届けられていたのです。そしてそれは受け継がれ、1100年を超える歴史を経て今があり、多くの人を見守ってきたのです。

その年にもよりますが、寒桜は春先まで楽しめるそうですよ。



海平 和：京都市出身、2010年KBS京都入社。テレビ「京スポ」、ラジオ「森谷威夫のお世話になります」などに出演中。

## ごみ減 活動報告 ◆ 『企業向けごみ減量実践講座』開催報告

当会議では、企業の方々日々取り組んでいる、廃棄物の減量及び適正処理、エネルギー対策などについて、先進的な取組の紹介、話題となっている問題とその対策等の講座や、取組現場の見学ツアーを開催しています。11月から12月にかけて開催した、3回の講座・見学ツアーについて、ご報告します。詳しい内容は、ウェブをご覧ください。

### 11月12日 〆 『京都駅ビル開発株式会社の環境保全対策』見学ツアー

廃棄物を出す立場のテナントさんのご苦勞話を伺ったり、廃棄物を減らす現場での工夫を実際に見せていただきました。駅ビルで働く方全員で、廃棄物の削減に取り組んでいらっしゃる事が、とてもよく伝わってきました。

### 11月18日 〆 『ゼロエミッションに取り組む関西電力 舞鶴発電所（石炭火力発電所）』見学ツアー

石炭のイメージとは違い、美しく整備された敷地で、たくさんの人の力によって、遠く離れた京都市内まで途切れることなく電気が送られてくることを実感。木質ペレットの使用でCO<sub>2</sub>の削減や、石炭灰のリサイクルなどさまざまなゼロエミッションの取組を知ることができました。

### 12月2日 〆 『アミタ堀口さんに聞く！廃棄物管理の基本とノウハウ講座』

さまざまな廃棄物処理の現場を見てこられた堀口昌澄氏から、ちょっとした判断のミスが、お金の面でも環境の面でも大きな損害を招くことを、さまざまな事例紹介とともにお話しいただきました。

入場無料

# 「ごみにまつわる映画祭」

\*要予約 一部要ドリンク代

ドキュメンタリーフィルムとトークで  
ごみについて考える3日間

「若者たちが、ごみについて考える機会を設けたい」。そんな想いから企画が生まれ、温めること三年半。遂に京都市ごみ減量推進会議が初の映画祭をプロデュースします。題して「ごみにまつわる映画祭」。ほとんどの人にとって、ごみは「捨てたら終わり」な存在。でも本当は「捨てたら終わり」ではありません。捨てた人の記憶とともに、どこかに残り続けるごみ。ごみから見えるさまざまな問題を、世界の最新ごみドキュメンタリー映画と、各分野のスペシャリストによるトークで一緒に考えてみませんか？

## 1月23日(金) 「もったいない！」 (原題Taste the Waste) 2011年/独/監督:バレンティン・トゥルン

「信じがたい真実ですが、私たちが日々食べる食品は、そのおよそ3~5割が食卓に届く前に捨てられています」。その驚愕の現実と原因をとらえ、私たちに何が出来るのかを探る。

開場 19時30分 開演 19時40分~22時20分

会場 「パタゴニア」京都店 烏丸通姉小路下ル 新風館1F **無料**

ゲスト 渡辺 浩平 帝京大学准教授・廃棄物研究者

- ▶京都市工学部衛生工学科から地理学専攻へ。その後イギリス・ケンブリッジ大学へと進んだ異色の廃棄物研究者。本作品の日本語に関わった。



## 1月30日(金) ヴィック・ムニース/ごみアートの奇跡 (原題WASTE LAND) 2011年/米/監督:ルーシー・ウォーカー

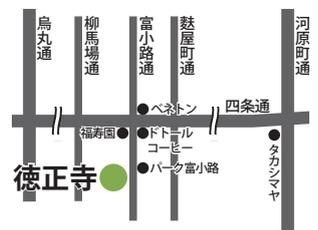
現代芸術家ヴィック・ムニースはガラクタで巨大なモザイク画を制作する。その目的には壮大な理念があった。アートで現実社会を変え、人を変えていく壮大な試みが、今、明らかに。

開場 18時00分 開演 18時30分~21時30分

会場 徳正寺 下京区富小路通四条下る徳正寺町39 **無料**

ゲスト 柴田 英昭 アートユニット「淀川テクニク」

- ▶松永和也とともに2003年にアートユニット「淀川テクニク」を結成。大阪・淀川の河川敷を主な活動場所として、落ちているゴミや漂流物などを使い様々な作品を制作する。



## 2月21日(土) 365日のシンプルライフ (原題Tavarataivas) 2013年/フィンランド/監督:ペトリ・ルーカカイン

フィンランド人の若者が失恋をきっかけに自分の持ちモノすべてをリセットして行なった365日の「実験」生活。公開時にはフィンランドの若者の間でこの実験が一大ブームに。

開場 13時30分 開演 14時00分~17時00分

会場 安楽寺 左京区鹿ヶ谷御所ノ段町21 **料金** ドリンク代500円

ゲスト 大月ヒロ子 ミュージアムエデュケーションプランナー

- ▶廃材のストック・活用のワークショップを行う「IDEA R LAB」を岡山県倉敷市にオープン。新刊『クリエイティブリユース—廃材と循環するモノ・コト・ヒト』(millegraph)を上梓。



### 事前申込方法

お名前と連絡先(電子メール・電話・FAX等)を、京都市ごみ減量推進会議事務局までご連絡ください。会場等の詳細や、受付終了等につきましては、ウェブサイトにてご案内いたします。

### お申込・問合せ先

京都市ごみ減量推進会議 事務局 Tel 075-647-3444/Fax 075-641-2971  
E-mail [sanka@kyoto-gomigen.jp](mailto:sanka@kyoto-gomigen.jp)  
ウェブサイト・申込フォーム <http://kyoto-gomigen.jp/news/28.html>

● 当日、ごごみ日和62号を持参いただいた方には、毎日が少し楽しくなるエコグッズをプレゼント！(各回先着20名)受付にて、見せてくださいね！